

## 巻 頭 言

出張先のローマで「理事長に選出されました」という小島理事長からのメールを受け取り、災難は天から降ってくるということを実感しました。大いにとまどいましたが、空間的な距離とタイムラグのためか、抵抗する気力が乏しく、結局は引き受けすることになってしまいました。

言うまでもなく日本数学会は数学を研究する者たちの会であり、「数学の研究を盛んにし、その普及によって学術文化の向上発展に寄与しようとする社団法人である」とは定款にあるとおりです。この目的を達成するための具体的な手段を考え実行することが理事会に求められているのだと思います。

数学の研究を盛んにするために、数学者個々人の研鑽と、数学者どうしの「提示された数学に興味を示し、批判をし、あるいは助言をする」積極的な研究交流が最も大切なことは言うまでもありませんが、同時に、数学の殻に閉じこもることなく、数学を取り囲む様々な分野に知的刺激を求めて交流を行うことも同様に大切です。他分野への数学的興味、あるいは他分野からの数学への興味が数学にダイナミズムを与え、実り深い成果を生んだ例は数限りありません。日本数学会は、このような数学者自身あるいはそれを取り巻く分野の研究者との研究交流を促進するための活動を、研究集会の企画やその実行、出版事業の展開、電子媒体による情報交換手段の充実など様々な形で行ってきました。今期の理事会もこのような活動を第一に考えていきたいと思います。

数学会のもう一つの役割は数学者の集団として、数学の研究あるいは数学全体の発展のための infra-structure の改善を社会に向けて訴えていくことだと思います。すでに理事会からの提言「我が国の数学力向上をめざす」に強調されている通り、数学は科学・技術全体の基礎であり、数学の弱体化は科学・技術全般の弱体化につながり、社会全体の停滞をもたらす可能性があることをより一層、社会に訴える必要があります。大学における数学の研究者の層の薄さは優秀な数学の学生の減少に、それは

初等あるいは中等教育における教員の全般的な質の低下につながり、総合的な数学の力の弱体化を引き起こしかねないのです。高等教育に対する国家の負担を増加して infra-structure を整備し、数学者の層を厚くし、数学の学生を奨励して数学力の全般的なレベルアップの必要があることを引き続き訴えていきたいと思ひます。

以上、要するに最近の理事会の活動方針を引き続いて行っていくことを確認したにすぎませんが、とくに第二の点はお金のかかることで、お題目を唱えているだけで成果が得られるとは思われません。具体的な成果を得るためには、限られたパイを最善の成果が得られるように分配する、より具体的なプランを提示していく必要があるように思われます。それがどのようなものであるかについては、しかし、様々な意見があり全体のコンセンサスを得ることは困難かもしれません。あるいはそのようなことは個々の研究機関が考えるべきことなのかもしれません。それでもコンセンサスが得られるものがあれば、数学会として積極的に取り上げていきたいと考えています。会員の皆様の積極的な提言を求めたいと思ひます。

私はリーダーシップを発揮することの出来る人間ではありませんが、理事の方々や事務局の方々とともに、以上のような活動を通して、数学の発展のために少しでも役に立てればと考えております。皆様のご協力をお願いする次第です。

2007年4月20日

谷 島 賢 二